

- 2026年度第3回放出に向けたH1東エリアC群およびH1東エリアA群、B群から測定・確認用設備A群へのALPS処理水の移送を5月20日に完了しました（移送量の実績：7,780m³）。また、5月22日から循環攪拌運転を実施し、5月29日にサンプリングを行い、分析を行っています。 <2026年5月29日までにお知らせ済み>
- 採取した試料の分析結果から、放出基準を満足していることを確認しました。

分析項目		分析結果
①	測定・評価対象核種(29核種)	告示濃度比総和「0.48」 (告示濃度比総和1未満を確認)
②	トリチウム	17万ベクレル/ℓ (100万ベクレル/ℓ未満を確認)
③	自主的に有意に存在していないことを確認している核種(39核種)	全ての核種で有意な存在なし
④	一般水質（44項目）	基準値を満足 (自主的に水質に異常のないことを確認)

- 外部機関(化研)の測定結果※も当社同様、放出基準を満足していることを確認しました。これらを踏まえ、7月6日からALPS処理水の海洋放出を開始します。なお、7月24日に完了する予定です（予定放出水量：約7,800m³）。
- ALPS処理水のトリチウム総量は約1.3兆ベクレル、海水で希釈した後のトリチウム濃度は約230ベクレル/ℓと想定しており、国の規制基準6万ベクレル/ℓ、WHO飲料水基準1万ベクレル/ℓ、政府方針で定められた1,500ベクレル/ℓに比べて十分に低い値となります。
- 引き続き、安全な海洋放出を安定的に実施できるよう緊張感を持って取り組んでまいります。

※ ①測定・評価対象核種（29核種） ②トリチウム ③自主的に有意に存在していないことを確認している核種（39核種）を測定

【参考】2026年度ALPS処理水放出計画（1/2）

- 2026年度の放出計画は以下の通り、年間放出回数8回、年間放出水量約62,400m³、年間放出トリチウム量約11兆ベクレルを計画。なお、年間放出トリチウム量は移送元タンク群での分析値と測定・確認用タンク群での分析値の違いによる影響等のため、計画値と実績値に若干の違いが生じる場合がある。

管理番号※1	移送元タンク※2	移送量※3	放出開始時期 (放出量)
26-1-19	H2エリアJ群 (測定・確認用設備 A群に移送)	: 約7,390m ³	4月 (7,800m ³)
	H1東エリアC群 (測定・確認用設備 A群に移送)	: 約390m ³	
26-2-20	H1東エリアC群 (測定・確認用設備 B群に移送)	: 約7,800m ³	5~6月 (7,800m ³)
26-3-21	H1東エリアC群 (測定・確認用設備 A群に移送)	: 約3,700m ³	6~7月 (7,800m ³)
	H1東エリアA/B群 (測定・確認用設備 A群に移送)	: 約4,100m ³	
26-4-22	H1東エリアA/B群 (測定・確認用設備 C群に移送)	: 約7,800m ³	7~8月 (7,800m ³)

次スライドへ

- ※1 管理番号は年度-年度毎の放出回数-通算放出回数の順で数を並べたもの。「26-1-19」は26年度第1回放出かつ通算第19回放出を表す。
- ※2 移送量（実績値）の増減により、移送元タンクの移送順序は変わらないが、放出回は前倒しもしくは後ろ倒しとなる可能性あり。 ※3 下線部は実績値を示す。
- ※4 ALPSで処理し、タンク貯留後に測定した、主要7核種（Cs-134,Cs-137,Sr-90,I-129,Co-60,Sb-125,Ru-106）の分析値から算出した告示濃度比にC-14の最大値（0.11）または分析値およびその他核種の合計を0.3と推定したものを加えた、保守的な値。H1東-A,B,C、H2-Bについては主要7核種の分析値から算出した告示濃度比に、C-14の最大値（0.11）または分析値、およびその他核種の分析値（タンク群毎に個々のタンクから採水し、それらを混合した試料を分析した値）を加えた値。
- ※5 タンク群平均、2026年4月1日時点までの減衰を考慮した評価値

[参考] 2026年度ALPS処理水放出計画 (2/2)



管理番号※1	移送元タンク※2	前スライドより 移送量	放出開始時期 (放出量)
26-5-23	H1東エリアA/B群 (測定・確認用設備 B群に移送) H2エリアB群 (測定・確認用設備 B群に移送)	: 約4,800m ³ : 約3,000m ³	二次処理 : 無 告示濃度比総和 : 0.32~0.84 ※3 トリチウム濃度 : 16万~17万ベクレル/l ※4 トリチウム総量 : 1.3兆ベクレル 8~9月 (7,800m ³)
26-6-24	H2エリアB群 (測定・確認用設備 A群に移送) K1エリアC/D群 (測定・確認用設備 A群に移送)	: 約6,200m ³ : 約1,600m ³	二次処理 : 無 告示濃度比総和 : 0.32~0.84 ※3 トリチウム濃度 : 15万~19万ベクレル/l ※4 トリチウム総量 : 1.3兆ベクレル 9~10月 (7,800m ³)
26-7-25	K1エリアC/D群 (測定・確認用設備 C群に移送)	: 約7,800m ³	二次処理 : 無 告示濃度比総和 : 0.35~0.40 ※3 トリチウム濃度 : 19万ベクレル/l ※4 トリチウム総量 : 1.5兆ベクレル 10~11月 (7,800m ³)
点検停止 (測定・確認用設備 A群タンクの本格点検含む)			
26-8-26	K1エリアC/D群 (測定・確認用設備 B群に移送) G4南エリアC群 (測定・確認用設備 B群に移送)	: 約1,900m ³ : 約5,900m ³	二次処理 : 無 告示濃度比総和 : 0.35~0.50 ※3 トリチウム濃度 : 19万ベクレル/l ※4 トリチウム総量 : 1.5兆ベクレル 2~3月 (7,800m ³)

➡ 2026年度放出トリチウム総量 : 約 **11兆** ベクレル

※1 管理番号は年度-年度毎の放出回数-通算放出回数の順で数を並べたもの。「26-1-19」は26年度第1回放出かつ通算第19回放出を表す。

※2 移送量 (実績値) の増減により、移送元タンクの移送順序は変わらないが、放出回は前倒しもしくは後ろ倒しとなる可能性あり。

※3 ALPSで処理し、タンク貯留後に測定した、主要7核種 (Cs-134, Cs-137, Sr-90, I-129, Co-60, Sb-125, Ru-106) の分析値から算出した告示濃度比にC-14の最大値 (0.11) または分析値およびその他核種の合計を0.3と推定したものを加えた、保守的な値。H1東-A, B, C、H2-Bについては主要7核種の分析値から算出した告示濃度比に、C-14の最大値 (0.11) または分析値、およびその他核種の分析値 (タンク群毎に個々のタンクから採水し、それらを混合した試料を分析した値) を加えた値。

※4 タンク群平均、2026年4月1日時点までの減衰を考慮した評価値